製品名: MAGI-2 ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab13599
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	156kDa

抗原情報

遺伝子名	MAGI2
別名	MAGI2; ACVRINP1; AIP1; KIAA0705; Membrane-associated guanylate kinase; WW and PDZ domain-containing protein 2; Atrophin-1-interacting protein 1; AIP-1; Atrophin-1-interacting protein A; Membrane-associated guanylate kinase inverted 2; MAGI-
遺伝子 ID	9863.0
SwissProt ID	Q86UL8
免疫原	抗血清はヒト MAGI2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲：221-270

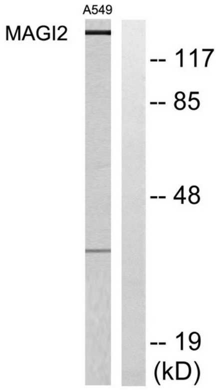
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質はアトロフィン 1 と相互作用する。アトロフィン 1 はポリグルタミンリピートを含み、その伸長が歯状核赤核および淡蒼球ルイ体萎縮の原因となる。このタンパク質は、 2 つの WW ドメイン、グアニル酸キナーゼ様ドメイン、および複数の PDZ ドメインを特徴とする。膜結合型グアニル酸キナーゼホモログ（MAGUK）ファミリーと構造類似性を示す。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 神経伝達物質受容体と細胞接着タンパク質を組み立てることで、シナプス接合部における足場分子として機能すると考えられる。神経細胞におけるアクチビンを介したシグナル伝達の制御に関与している可能性がある。 PTEN の AKT1 活性化を抑制する能力を強化します。,類似性:MAGUK ファミリーに属します。,類似性:1 つのグアニル酸キナーゼ様ドメインを含みます。,類似性:2 つの WW ドメインを含みます。,類似性:6 つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。,細胞内位置:シナプトソーム内の膜結合部。,サブユニット:WW ドメインを介して DRPLA と相互作用します。2 番目の PDZ ドメインを介して PTEN の非リン酸化 C 末端と相互作用し、この相互作用によって PTEN の分解速度が低下します (類似性による)。グアニル酸キナーゼ ドメインを介して DLGAP1 と相互作用します (類似性による)。PDZ ドメインを介して GRIN2A、GRID2、および NLGN1 と相互作用します (類似性による）。 CTNND2 、 CTNNB1 、 MAGUIN-1 、 ACVR2A 、 SMAD2 、 SMAD3 と相互作用する（類似性による）。AIP1、ACVR2A、ACVR1B、SMAD3 からなる複合体の一部である（類似性による）。HTR2A と相互作用する可能性がある（類似性による）。IGSF9、RAPGEF2、HTR4 と相互作用する（類似性による）。DDN と相互作用する。,組織特異性: 脳で特異的に発現する。,

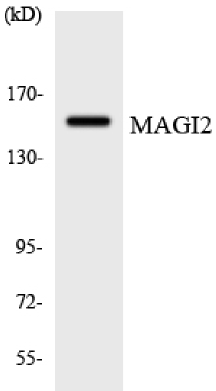
研究分野

タイトジャンクション;

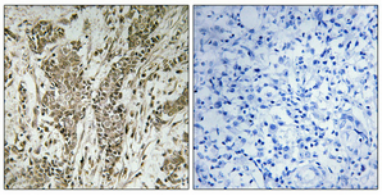
画像データ



MAGI2 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MAGI2 抗体を使用した 293 細胞からの溶解物のウエスタン ブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100（4℃、一晩）に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA（pH8.0）を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール（右）は、免疫原ペプチドで前処理した。